

### 5. トリコチロマニア (抜毛狂, 抜毛症) ★

trichotillomania

抑えきれない衝動にかられ、自らの手で毛髪を引き抜いてしまうために脱毛を生じるものである。学童期に好発する。患者は抜毛を否定する場合があるため、他の脱毛との鑑別を要する。境界不明瞭な不整形の脱毛がみられ、不完全な脱毛斑となる。病巣内に短く切れた毛が残存する一方、新生毛もある。手の届く範囲に病巣があり、右側の前頭や側頭部に多い。患者の心理的問題や性格、家庭環境を背景にしているため、治療に際しては精神科医などと協力する必要がある。

### 6. 癬痕性脱毛症 alopecia cicatricans

外傷、熱傷、放射線などによる癬痕形成の結果、毛包が不可逆的に破壊されて脱毛をきたしたものである。治療には外科的手技を要する。

## D. 爪甲の変化 disorders of nails

### a. 爪甲の色調の変化

#### 1. 黒色の爪 melanonychia ★

爪母メラノサイトの増加によるもの（母斑細胞母斑、炎症、圧迫によるメラノサイト活性化など）や悪性黒色腫によるもの、爪下出血、Addison 病、薬剤性（5-FU、プレオマイシン、ヒドロキシウレアなど）などの原因が考えられる。爪外の皮膚（爪郭部）まで黒色病変が及んでいる場合を Hutchinson 徴候といい、悪性黒色腫の可能性が高い（図 19.16）。

#### 2. 黄色の爪 yellow nail ★

爪の栄養障害や感染症、柑皮症や黄疸などによる。リンパ浮腫および慢性肺疾患を合併したものを yellow nail 症候群といい、D-ペニシラミン、テトラサイクリンで誘発されることがある。

#### 3. 緑色の爪 green nail ★

緑膿菌の日見感染であり、爪白癬や爪カンジダ症に合併し

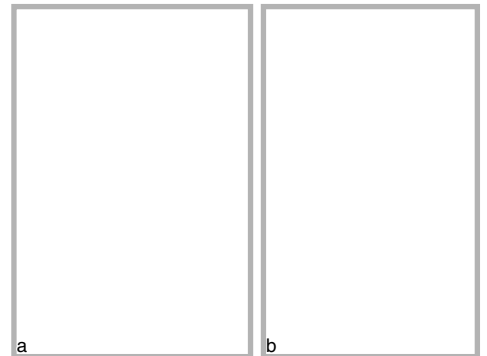


図 19.16 黒色の爪 (melanonychia)

a：爪の色に濃淡の差があり、爪の先端部が変形する。悪性黒色腫が疑われる。b：25歳女性。組織学的には半年前より急速的に発現し、malignant melanoma in situ の像を呈した。

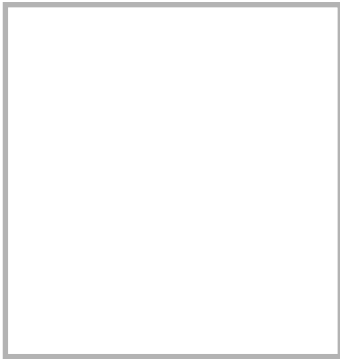


図 19.17 緑色の爪 (green nail)



図 19.18 時計皿爪 (clubbing)  
爪甲全体が時計ガラス状に丸く隆起し、太鼓ばち状に肥大する。

やすい (図 19.17)。

#### 4. 白色の爪 white nail

点状の白斑は、外傷などによって部分的に不全角化が起こるために生じるもので無害である。ネフローゼ、肝硬変などの低アルブミン血症、貧血、強皮症、糖尿病などの全身性疾患や砒素などの中毒、白癬や爪甲剥離などによっても白色となる。

#### 5. 爪下の紫斑

外傷などによる出血、Osler 病、亜急性心内膜炎などによって、点状ないし線状の紫斑をみる。

### b. 爪の形態の異常

#### 1. 時計皿爪 clubbing ★

ばち状指 (clubbed finger)、ヒポクラテス爪 (hippocratic nail) とも呼ばれる。爪甲が全体的に大きくなって時計ガラス状に丸く隆起し、指趾末節が太鼓ばちのように肥大する (図 19.18)。指の末端の軟部組織にムコ多糖類が沈着するために生じる。慢性の心肺疾患 (肺気腫、肺癌、気管支拡張症、先天性心疾患)、甲状腺機能亢進症、潰瘍性大腸炎、Crohn 病などで認められる。厚皮骨膜炎 (pachydermoperiostosis) の一症状として家族性に出現することもある (18 章参照)。

#### 2. 匙型爪甲 spoon nail ★

爪甲がスプーン状に陥凹し、爪甲自体も薄くなるものである。手の爪に多い。乳幼児では生理的にみられることがある。鉄欠乏性貧血で典型的にみられるが、そのほかに扁平苔癬、乾癬、真菌感染、外傷、化学物質などによって生じることがある。

#### 3. 爪甲剥離症 onycholysis ★

爪甲が末梢側から剥離してくる状態をいい、剥離をきたすが脱落に至ることはない。外傷やマニキュア、洗剤など爪甲部皮膚の炎症によるもの、爪カンジダ症など局所的原因によるもの、甲状腺機能亢進症や末梢循環障害、薬剤などの全身的原因によるものが存在する。

#### 4. 爪甲脱落症 **onychomadesis, nail shedding**

爪甲剥離症とは逆に、爪根部から末梢側へ爪の剥離が進み、ついには脱落する。特発性のものであるが、外傷や爪囲炎、乾癬、扁平苔癬、梅毒、紅皮症などで生じることもある。

#### 5. 厚硬爪甲 **pachyonychia** ★

爪甲自体が厚くなるか、あるいは爪甲下角質増殖で肥厚した状態である。爪甲の伸びが妨げられても分厚くなる。

#### 6. 爪甲縦溝 **longitudinal groove**

爪甲を縦に走る線条である。老人性変化の一つとしてみられることが多い。進行すると爪甲縦裂症（*onychorrhexis*）という爪甲が縦に割れやすい状態となる。外傷、湿疹、強皮症、貧血などでみられる。とくに、分厚く彎曲した状態を爪甲鉤彎症（*onychogryphosis, onychogryposis*）という。

#### 7. 爪甲横溝 **transversal groove**

横に溝が走った状態をさし、爪母に何らかの障害が生じて、爪甲の成長が一時的に抑制された結果である。溝の幅は障害の期間を、溝の深さは障害の強さを意味する。感染症〔チフスや溶連菌感染症（猩紅熱）など〕、糖尿病、重症失血、薬剤、亜鉛欠乏症、爪周囲の外傷や炎症などが原因となる。内因性で生じたものをとくに *Beau's line* と呼ぶ。

#### 8. 点状凹窩 **pitting**

爪甲に針でつついたような点状の凹窩が多発する。乾癬や円形脱毛症でみられるほか、正常人にも生じることがある。

#### 9. 爪甲層状分裂症 **onychoschisis**

爪の先端が細かく鱗状に層状分離をきたして、割れやすくなっている状態である。マニキュアによることが最も多いが、SLE などの全身性疾患によっても生じうる。

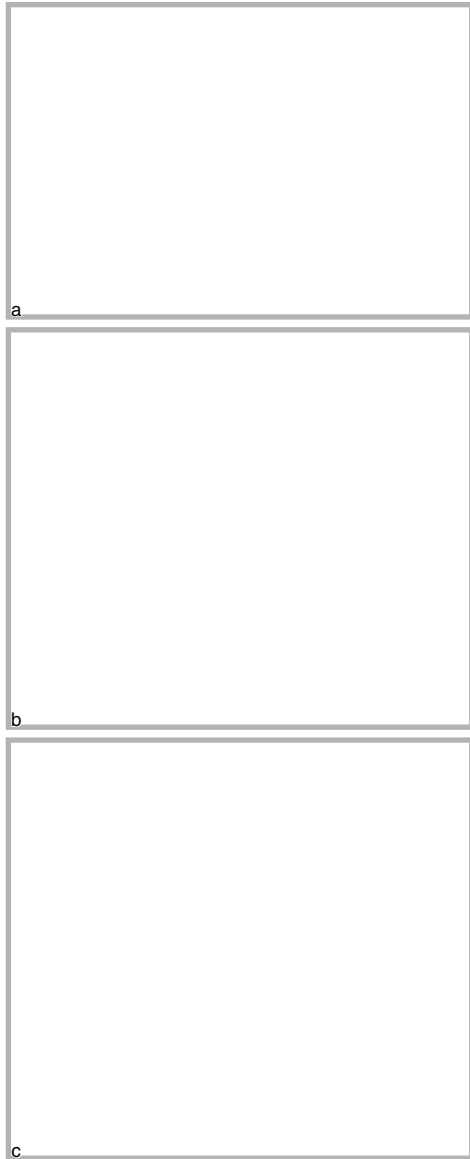


図 19.19 陥入爪 (ingrown nail)

a : 第 1 足趾爪, 内側が側爪郭に食い込み疼痛を伴う。  
 b : 反応性の肉芽形成。c : 治療として爪母を含めた部分抜爪術。

## 10. 陥入爪 ingrown nail

★

爪の側縁が側爪郭に食い込み, このために側爪郭が腫脹発赤して肉芽腫様に盛り上がり, 圧痛を伴う (図 19.19a). 程度が強いと爪囲炎など二次感染をきたし, 反応性の肉芽形成を伴う (図 19.19 b). 靴による圧迫や深爪が原因となり, 第 1 趾に好発する. 白癬菌による爪の変形に続発する場合は原疾患の治療を行う. 治療は外力を避け, 清潔を保つのが第一であるが, 難治性のものに対しては外科的手術が必要となる (図 19.19 c).